

事務事業評価表 平成25年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実
 基本事業 教育内容の充実

事業名 **小中学校学習サポート事業**

[0864]

部名	教育部	事業開始年度	平成21年度	実施計画事業認定	非対象
課名	学校教育支援室 学校教育課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内小中学校児童生徒</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>児童にとって分かりやすい授業を行うことで、児童の勉学意欲が向上し確かな学力の定着を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>市内小中学校にボランティア講師を派遣し、担当の教師と共に、チーム・ティーチングによる学習指導を行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	小中学校児童生徒数	人	10,305	10,042	9,722	9,503
対象指標2						
活動指標1	ボランティアの登録人数	人	36	38	35	37
活動指標2						
成果指標1	年間派遣人数	人	29	38	35	37
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	3,681	6,036	8,133	8,197
正職員人件費 (B)		千円	2,015	2,408	3,206	3,222
総事業費 (A) + (B)		千円	5,696	8,444	11,339	11,419

費用内訳	
24年度	報酬 1,729千円、報償費 6,398千円、旅費 6千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	平成19、20年度の全国学力学習状況調査において、北海道が下から2番目という調査結果を受け、全道をあげて学力向上を目指しているところであるが、江別市においても、平成20年度江別市学校改善支援プランを作成し、その中で、江別市が学校に対する支援の一環として、児童・生徒の学力向上のためのボランティア等による授業サポート事業の実施を掲げた。	事業を取り巻く環境変化	
--------	---	-------------	--

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は？

児童・生徒の学力向上につながる。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は？

確かな学力の定着が求められており、授業中に一人ひとりの理解度に応じて指導することで、児童の学力向上につながる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は？

ティームティーチングによる学習支援ができることで、目が行き届く指導ができるようになった。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は？

ボランティア講師の登録者が増え、学校からの派遣希望の条件と合致すれば事業の拡大が見込める。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

ある

ない

理由
・
根拠は？

学校からの派遣希望が多い状況で、ボランティア講師の派遣日数を減らすことは難しい。